

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の確実な定着と自ら考える力の育成を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を図る。
- 一人一台のタブレットやICT環境を効果的に活用し学力向上を図る。

学力向上検討委員会構成

- | | | | |
|-----------------------|----|----------------|----------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 後藤 由美 | 教頭 三岡 功和 |
| 教諭 神崎 素子
(研修・国語主任) | | 教諭 間 幸子(教務主任) | |
| | | 教諭 楠本 奈々(算数主任) | |
| | | 養護教諭 小泉 加余子 | |

校長

後藤 由美

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【取組状況の把握について】

校内研修による共通理解等様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語科「漢字の読み書き」や、算数科「数と計算」については力が伸びてきている。また与えられた課題についてまじめに取り組む児童が多い。 ●学習したことを別の場面や時間において、使うことができないことがある。確実に身に付けているとはいえないことがある。	・資料や新聞を活用し、語彙力を高め、正しい言葉で文章を書くことができる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、国語・算数の「単元末テスト」で80点以上とることができる。	・読書活動を推進し、新聞を活用するなどして活字に親しみ、語彙を増やすことができるようにする。 ・朝のジャンプアップタイムで視写、音読、漢字、計算などの反復練習及び小テストでの振り返りを行い、基礎的・基本的な内容の習得を図る。	・いろいろな文章を読む経験を積むために、学力向上プリントに取り組む。月に1回、金曜日の宿題にし、月曜日の朝の学習の時間に答え合わせ・解説をするようにする。(チャレンジ宿題デー)	・新聞も含めた日々の読書活動を通して、様々な文章に触れる機会をもち活字に親しむことができた。 ・単元末テストにおける基礎的・基本的な知識・技能で80点以上を達成する児童は7～8割程度であった。 ・チャレンジ宿題デーで様々な形式の問題に触れるよい機会となった。	・学年ごとに読書活動や自主学習など、ねらいに応じた取組を工夫し実践していく。 ・チャレンジ宿題デーについては、回数や内容など年間を通して計画を立てて継続していく必要がある。 ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるためAIドリルを活用する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な話型を見たり事前に原稿を書いたりして見通しをもつと、自分の考えや思いを發表することができる。 ●課題に応じて必要な情報や資料を取り入れたり、課題解決に向けて友達の意見とつなげて自分の意見を言ったり考えをまとめたりすることに課題がある。	・課題に応じて情報を取捨選択できる。 ・課題解決に向けて、理由を挙げたり、友達の意見をつなげたりして自分の意見を書いたり、発表したりすることができる。	・学期に1回程度、課題解決に向けた学習に取り組む、必要な情報を取捨選択する経験をさせる。 ・ペア学習・グループ学習・討論などを取り入れた授業を行う。 ・「意見のもち方・言い方(手引き)」を作成し、メタモジに入れておき、ペア学習・グループ学習のときに活用させるようにする。	・文章を読み、語彙を増やしたり、自分の意見を書いたりするために新聞の記事を活用する。月に1回、あわっこタイムズから、好きな記事を切り取り、線を引いたり、感想を書いたりするようにする。(あわっこタイムズデー)	・課題解決に向けた学習に取り組むことで、自ら資料を選んだり、その理由を發表したりすることができた。 ・ペア学習や討論などを取り入れた授業を行ったが、形態だけになり意見を深めるところまではいかなかった。意見をつなげることが難しかった。 ・あわっこタイムズデーで記事を読み要点につながる部分を見つけ線を引くことができた。	・「意見のもち方・言い方(手引き)」を作成したがあまり活用できなかった。児童がすぐに使えるように机に吊るなど方法を考えたい。 ・あわっこタイムズデーで記事を読み考えを書くことは新聞に触れる機会が少ない児童にとって大変有効であった。付けたい力を学年ごとに整理し、継続して取り組みたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの児童が落ち着いて学習に取り組む、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●十分できているのに、自信がなく、周りを気にしてしまう。 ●自ら学習課題を見つかったり、計画を立てたりすることに課題がある。	・自ら学習課題を見つけ、解決できるように計画を立て、実践することができる。 ・学校生活をよりよくしようと主体的に考え、行動することができる。	・単元の中間でも振り返りを行うようにし、自らの学びを確かめながら学習を進めることができるようにする。 ・メンター制度を利用し、教員間で授業改善の情報交換をする。 ・委員会活動や150周年行事を通して、児童が活躍できる場面を作り、互いに認め合える機会を増やす。		・異学年班での集会活動を通じて高学年はリーダーとして活動でき、自己有用感をもつことができた。低、中学年も進んで参加することができた。 ・授業方法やスキルを情報交換でき、授業改善につながった。 ・150周年記念行事などで発表する機会を増やすことで互いに認め合う機会が増えたり、自信が付いたりすることで自己肯定感を高めることができた。	・自ら学習課題を見つかったり、計画を立てたりすることは、まだ難しいところがある。教師が課題設定の提示をするなどの支援が必要である。 ・自らの学びを確かめるための方法の研修を進めたい。 ・教員間の授業や学級経営上の情報交換は有効である。もっと簡単に聞き合えるようなシステムを作りたい。

令和5年度 学力向上ロードマップ

